

平成31年2月/2 日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 公 明 党

代表者名 増崎 俊宏



会派の（調査研究・研修）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成31年1月23日（水）10：00～16：30
2 調査研究または 研修の場所	TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター （東京都中央区京橋1-7-1戸田ビルディング）
3 調査研究事項 または研修名	「決算カード」から読み取れる！あなたのまちの本当の 財政状況を知る in 東京
4 参加者氏名 （1名）	増崎 俊宏
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

10:00～12:00

●決算状況（財政収支）

- ・自治体の黒字、赤字って何？
- ・実質収支と実質単年度収支の違い
- ・近年の自治体財政の赤字問題
- ・全国自治体は全て黒字。でも本当は半分以上が赤字のワケ

14:00～16:30

●決算状況（財政指標）

- ・自分のまちの財政力を確認
- ・自分のまちは持続可能な状態か？
- ・健全化判断比率ではわからない自治体財政の本当のすがた

【感想等】

総務省がHP内で公表している全国の市町村決算カード（平成28年度）をもとに講義が進められた。各々の自治体決算カードを参照しつつ、その見方や見るべきポイントなどを説明していただいた。特に、家計に例えて財政収支の仕組みについて分かりやすく教えていただいた。

その自治体が赤字なのか黒字なのか、判断する指標は実質収支であるが、全国の自治体はほぼ黒字。実質単年度収支がマイナスとなる状態が続くと危ないが、プラスとマイナスが交互になる状態であれば、財政当局が上手にコントロールしている状態と言えるのではないかとのこと。また、自治体が借金をすることは必ずしも悪いことではなく、そのメリットとしては負担を平準化する機能があり、かつ事業スピードが速く、市民満足度を高めることに繋がることを挙げてくださった。日頃、思っていたことを代弁してくださったような気がしたが、様々な財政指標から分析し、舵取りしていくことの重要性を再認識した。

今後、気を引き締めていくべきことの一つは経常収支比率との見解も同じであった。本市において民生費、いわゆる社会保障関係費が増えてきている状態であり、それは全国的にも同じようである。事業の見直しなどが必要になってくるだろうとのことであった。どうしても必要なものとそうでないものを選別する厳しさが我々には求められているのかもしれない。

沢山の資料を頂いたので、これをよく読みこんで今後に生かしていきたい。

